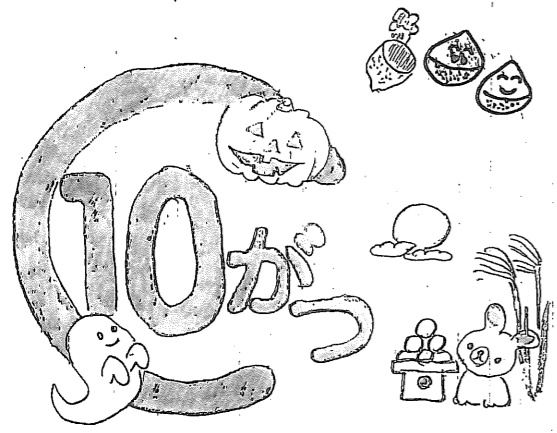


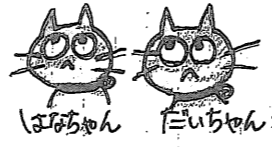
月刊 利根白石新聞
2009年11月1日創刊 令和5年10月号

第000169号
発行 利根白石株式会社 TEL 0278-24-1635
本社販売管理課 FAX 0278-23-7980



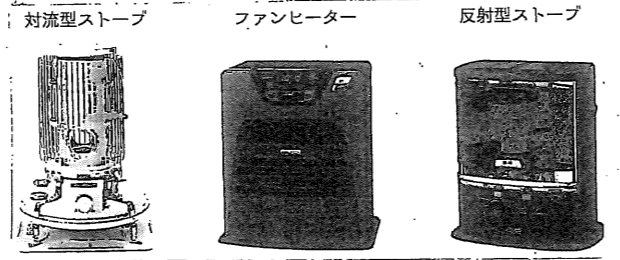
先月は暑かったですね。30度越えの日々...
「今年の夏は長かった〜」顔が白に焼けて真黒です。(笑)「シミ」が増えます!!
「暑さ寒さも彼岸まで」というのは本当に言葉通りですね。穏やかな日々が続くといいですね。秋の味覚をたのむしたいですね♡

数か月前に、捨て猫2匹を保護した方から、中が家で引き取り育てるといになりました。黒猫で兄妹のようです。保護した時はまだ生れたばかりだったので、昼間誰もいないので、カリカリのご飯が食べれるまで預ってもらいました(感謝)♡
その間に受け入れ態勢として、大きめのケージを購入。お世話には息子が約束でしたが... 可哀相な様子だったので、子猫ちゃんたちもご飯くわえ私になつく言えぬ。ソファに座っていると、背もたれに登り、後から肩に「トントン」と合図「はいはい... ご飯ね」と立ち上げ、足にしゅわてあふないです。
ケージから外に出ると、走り回り、畳、カベ紙がボロボロな仕方がないのが... 悲しい。猫ちゃんたちを見ると、息子たちの小さな顔を思い出します。3人で家の中を走り回り、シンカしたり、ガラスを割ったり... ものすごくうるさかったあの時が懐しいです。子育ても終り、ペットを可愛がる時期が来たようです。



2匹とも真黒なので、キッチンに立っていてもわかりず、踏みとくにはなっています。

ストーブメンテナンス好評受付中!!
ようやく秋らしくなって来ましたね。本格的な冬を迎える前にストーブのメンテナンスをしませんか。内部に埃が溜った状態で使用していると、基盤や燃焼室の故障や嫌なニオイの原因になってしまいます。隅々まで分解、清掃する事で故障の原因を解決いたします。まずはお気軽にお問合せ下さい。



業務用ファンヒーターもお取り扱いしております。反射型ストーブの芯交換も可能です。

そろそろ暖房機の準備しませんか?

長く、暑い今年の夏がようやく終わろうとしています。気象庁によれば今年6月~8月の平均気温は、平年を1.76℃も上回り、過去最高となりました。また、お彼岸を過ぎた9月後半にも真夏日が続き、9月28日には静岡市や甲府市など全国で4ヶ所が35℃を超える猛暑日となり、統計開始以来、最も遅い猛暑日を記録しました。

10月の予想でも記録的な厳しい残暑は続きそうです。気象庁の記録上、最も遅い真夏日(最高気温30℃以上の日)の記録は東京都心で10月12日との事ですが、今年はこちらも更新するかも知れません。とは言え、朝晩は20℃を下回るようになり、秋の訪しも感じられるようになりました。例年になく「長く、暑い夏」だっただけにその分、秋は短く、冬の訪しも早く感じられるかも知れません。そこで気になるのが暖房機いざ使おうと思っただけで、「あ!?! 火がつかない!」なんて事の無いように予め準備しておきましょう。今年からスタートした利根白石のストーブメンテナンスもご利用のお客様、またガスストーブの貸出サービスもご利用のお客様には今日より順次ご連絡のうえ、ご都合の良い日程でお届けさせていただきます。

ところで暖房機と一口に言っても、エアコンや石油ストーブ、ガスファンヒーターなど、エネルギーと暖め方によって様々なタイプがありますが、湿気(水蒸気)との関係をご存知ですか? エアコンの温風には含まれない水蒸気が、石油やガスの暖房機からは発生しているんです。これは空気を暖めて温風を吹き出すエアコンと、燃料(炭火水素)を燃焼させて温風を吹き出すファンヒーターやストーブの違いです。燃焼の過程で炭火水素(CとHの化合物)が空気中の酸素(O₂)と結びついて、二酸化炭素(CO₂)と水蒸気(H₂O)が生成されるのです。では、一本どのくらいの水蒸気が発生するかというと、灯油1Lの燃焼でおよそ1Lの水蒸気が発生します。ガスも1m³の燃焼でほぼ同量の水蒸気が発生します。

実は、この水蒸気が体感温度に大きく影響しているんです。暖房機など機械メーカーのダイナミック工業の調べによると、同じ室温25℃で比べた場合、湿度30%に比べて、湿度60%の方が1.7℃も体感温度が高いんです!

湿度の違いによる体感温度を計算
下は同じ25℃の場合の、湿度による体感温度の違いを計算した結果です。湿度が違うだけで体感温度に1.7℃も差が生じます。

室温 25℃		
部屋の湿度	30%	60%
体感温度	21.4℃	23.1℃

体感温度では約1.7℃も暖かい。

*10畳間・天井までの高さ2.4mの部屋の場合。ミスマール体感温度計算式で算出。
ダイナミック工業ホームページより
水蒸気は一方で、窓枠などの結露も発生させます。寒い夜など室温と外気温の差が大きい時に、窓ガラスや鉄製サッシだと外気温が内側にまで伝わってしまい、その気温差で結露が発生してしまいます。対策として、(一重の)二重(ペア)ガラスや樹脂サッシに代えることで断熱効果を上げる(気温差を縮める)のが理想ですが、費用もそれに伴って掛かります(長い目で見れば暖房費の節約になるのでメリットは大きいですが...)。吸水テープや乾燥剤など市販の結露防止グッズでも一定の効果はありそうです。
また、換気のことを考えると、石油やガスストーブと共にエアコンや加湿器などを併用するのも良さそうです。電気も灯油もガスも高いので、それぞれの状況に合わせた賢い使い方をしましょう。